

今年は、節分が2月2日で日曜日だったために、園児たちは一足早く豆まきをしました。無事に悪い鬼を追い出せると良いと思います。

ところで、鬼は悪いものだとは誰が決めたのでしょうか。また、鬼は実在していたのでしょうか。深掘りすると長くなるのでここではこれ以上取り上げませんが、怖い存在を知ることや味わうことは、心の成長にとっては、ある程度必要なことだと思います。怖いものから逃げる力や立ち向かう力を養うことができるからです。社会には、不慮の事故などの怖い出来事が思いがけず起こることがあるので、それを回避する力の基礎となるものを培っていこうと思います。

さて、2月の大きな目当ては、「豊かに」です。1月を元気に過ごしている園児たちは、寒空の下でも楽しそうに過ごしています。その中で、3歳以上児は、生活発表会を目標に、活動に取り組んでいます。保育教諭は、その内容が充実し、園児の姿が豊かに表現されるように関わっています。生活発表会において、その姿が十分発揮されることを願っています。



生活発表会へ向けて

1月25日(土)、いちごぐみとあんずぐみ、きういぐみは、生活発表会がありました。対象となるクラスの園児は、4月からは月1~2回のペースで2階の多目的ホールで遊ぶことがあったのですが、1月に入ってからは、より多目的ホールで過ごす機会を多くしてきました。ステージで遊ぶ経験も多くし、生活発表会へ臨んできました。時には、ステージで遊ぶ姿を3歳以上児クラスの園児がお客さんとなって応援するという環境もつくってきました。このような経験を積むことによって、少しでも場慣れし、本番でも動揺することなく、いつもの姿がお見せできれば、という思いで保育教諭は取り組んできました。

その結果、保護者の皆様がご覧になったように、一人一人が自分の力を発揮できたと思います。皆様のあたたかい応援、本当にありがとうございました。

ここに少しこれまでの姿を紹介します。



いちごぐみのステージです



ステージ入れ替えの様子です



「はじめのことば」の練習です



ステージ前にたくさんの子が探検していました



お客様役の園児の前で踊っています



カブが抜けた瞬間です

<今後の予定>

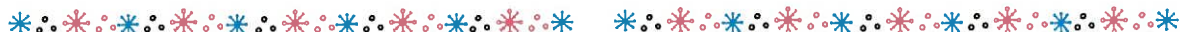
- 2月10～14日 身体計測週間(すもも・かりん・れもんぐみ)
- 2月17～21日 身体計測週間(いちご・あんず・きうぐみ)
- 2月22日(土) 生活発表会(すもも・かりん・れもんぐみ)、お弁当日
- 2月25日(火) 健康診断
- 2月26日(水) 誕生会



○ 3月22日(土) 卒園式

《玄関前の門扉の施錠について》

先日より、玄関前の門扉につきまして常時施錠するようにお願いをしたところです。日頃お迎えに来られない祖父母様等にもお伝えいただけますと幸いです。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



コラム 59：自尊感情を育てる

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

子育ての話を読んだ時に『叱るより褒めることが大切』といわれたり『自尊感情が育っていない』などといわれたりするのですがそれほどいうことですか」と聞かれることが多くなりました。そこで、今回はそのことを少し丁寧に考えてみたいと思います。

私たちは叱られると、「ストレスやプレッシャー」を感じてやる気をなくしてしましますが、褒められるととても良い気分になり、やる気がでることを体験として感じます。このようなとき「自尊感情」が育ってきたとよくいわれます。

ここでいう自尊感情というのは、「自分自身をどのように評価するか (self-esteem: セルフ・エスティーム)」ということが、基本的な定義のようですが、分かりやすくいえば、「自分をどれだけ愛せているかを測る指標」ということで「自尊心」とか「自己有用感」、「自己肯定感」などともいわれているようです。それは、いい方を変えれば「周りから自分が受けている愛情を感じる指数」といってもいいもので、子どもたちだけでなく、私たちが叱られてばかりいると、自己評価が低くなり、「自分は何をしてもうまくできない、何の価値もない人間だ」と感じてしまい、我慢したり自分をコントロールしたりすることができなくなり、まわりとうまくつき合っていく協調性を失ってしまいます。また、周りからの愛情を感じることができませんので、心が不安定になってしまい、自分を肯定的に受け入れることができずものごと積極的に取り組むことが難しくなります。

逆に、私たちが褒められたり褒められたいとされると自分もいい気分になって、自分も周りの人の役に立っているという「自己有用感」をもてるようになります。これは、自分がどれだけ必要な人間であるかということやどれだけ社会の役に立っているかということを感じることにつながり、周りの人と仲良くする協調性や困難なことにも精一杯取り組む積極性を育ててくれます。「自己有用感」がもてるようになると、自分のことをよく知り、上手に統制する「自己調整感」も育ってきます。それは自信にもつながり、色々なことを自分の思うようにやり自分らしくありたいという自己存在感を育て自己主張をするようになってきます。このように気持ちが

満たされてくると自尊感情も高まってきます。

このように自分を受け入れ、周りに対しても自己主張ができるようになると自分に対して安定的な安心感が育ち「自己安全感」も根付いてきます。そうすると、子どもたちは、良いところもそうでないところも含めてありのままの自分が好きになり、一人でいても「いつも周りの人に支えられている」という安心感をもって生きていけるようになります。この「自己安全感」は、過去にあった嫌な経験や傷ついた経験などを癒やしてくれる力があり、周りの人とも信頼関係をつくり、明るく肯定的に生きていく力を育ててくれます。このように自尊感情が高まると、子どもは「自分ができる」と感じるが多くなり、様々なことに挑戦をし、失敗をしても諦めず、工夫をして乗り越えていくパワーを発揮するようになります。

ここでこの「自尊感情」を家庭の中で育てていくには、どのようにすればいいかということが問題になるのですが、最後にそのことを少し考えてみたいと思います。

まず、大切なことは子どもをしっかり承認することです。つまり、子ども自身がやってみたこと、考えたことやその表現を認めるのです。そして、「あなたがここに居ることが嬉しい」という気持ちを子どもに伝えるのです。そうすれば、子どもは上手いかないことも大人に見守られていると感じ取り、自分を信じ、自分を認める力が養われます。

次に、子どもがワクワクし進んで遊ぶことができる場をつくることが大切です。そのためには、笑ったり、時に叫んだりして私たち自身が子どもとともにワクワクしていることが大切です。さらに、五感を刺激する素材をたくさん与え、自分の好きな感覚、嫌いな感覚を通して自分を理解するようにすると安心して成長をしてくれるようになります。

ここで、このように提案していることを家庭で一つ一つ完全にすることは、難しいとは思いますが、できるものから少しずつ取り入れていくと自尊感情も育ってくると思いますので、機会を見て子どもとともに取り組んでみてください。